

令和5年3月28日 開催

## 令和4年度

### 第4回名古屋教育記者会懇談会

日時：3月28日（火） 10:00 ~11:30 @広報プラザ

司会：木村副総長

	内 容	担 当
1 冒 頭	・開会・本日のテーマ紹介	
2	・卓越教授の採用について（資料1） 卓越教授の選考経緯・選考理由 卓越教授のご紹介  ・ディープテック・シリアルイノベーションセンターの設置 について（資料2） ・本学のスタートアップ戦略について（資料3）  ・令和7年度以降の名古屋大学理学部における入学者選抜の 変更について（資料4）  ・令和5年度学校推薦型選抜 工学部女子枠の選考結果につ いて（資料5）	・杉山直 総長 ・天野浩名古屋大学 特別教授 ・山内悠輔クイーン ズランド大学教授  ・宇治原徹未来材料・ システム研究所教授 ・武田一哉副総長  ・佐久間淳一副総長 ・寺崎一郎大学院理 学研究科長  ・佐久間淳一副総長 ・宮崎誠一大学院工 学研究科長
3 その他	【資料配付】 4月の行事予定表（資料6）	

# 【資料1】

卓越教授の採用について

# 名古屋大学卓越教授として2名を選考

「名古屋大学卓越教授」として、天野 浩 名古屋大学特別教授、山内 悠輔 クイーンズランド大学教授の2名を選考しました。

## <選考経緯・選考理由>

### 【選考経緯】

天野氏について名古屋大学執行部、山内氏について名古屋大学大学院工学研究科から推薦があり、名古屋大学卓越教授選考委員会の議を経て、3月13日開催の名古屋大学運営会議において、両氏への「名古屋大学卓越教授」の称号付与を決定

### 【選考理由】

#### ○天野 浩（あまの ひろし）名古屋大学特別教授

2014年ノーベル物理学賞受賞。受賞以降も、GaN総合研究プロジェクトの統括リーダー、名古屋大学未来材料・システム研究所附属未来エレクトロニクス集積研究センター長として研究を指揮するとともに、共同利用施設として世界的にも類を見ないGaNに特化した最先端クリーンルーム（エネルギー変換エレクトロニクス実験施設）の設立に尽力。世界最短波長深紫外レーザーダイオードの開発、10GHz帯で発振する衝突イオン化電子雪崩走行時間効果（IMPATT）ダイオードの実現などの卓越した成果をあげ続けており、我が国の半導体研究に欠かすことのできない人物である。

#### ○山内 悠輔（やまうち ゆうすけ）クイーンズランド大学教授

（2023年4月から名古屋大学大学院工学研究科教授（クイーンズランド大学教授））

ナノ空間を制御した物質・材料の創製と応用を研究分野とし、独自の物質プロセスを開発することで、高比表面積、高触媒活性、電気伝導性などの特徴を兼ね備えるナノ空間物質を合成するとともに、エネルギー貯蔵や物質-エネルギー変換などSDGsの諸課題解決に取り組んでいる。論文に係る被引用数、Top10%・Top1%比率などの指標、研究費獲得実績は極めて顕著であり、当該分野の世界的拠点形成の中心的な役割を果たすことが期待される。

# 名古屋大学卓越教授として2名を選考

## <略歴>

○天野 浩 氏 1960年9月生・62歳

### (学歴)

- 1983年3月 名古屋大学工学部 卒業
- 1985年3月 名古屋大学大学院工学研究科博士課程前期課程 修了
- 1988年3月 名古屋大学大学院工学研究科博士課程後期課程 単位修得退学
- 1989年1月 工学博士（名古屋大学）

### (職歴)

- 1988年4月 名古屋大学工学部 助手
- 1992年4月 名城大学理工学部 講師
- 1998年4月 名城大学理工学部 助教授
- 2002年4月 名城大学理工学部 教授
- 2010年4月 名古屋大学大学院工学研究科 教授
- 2015年10月 名古屋大学未来材料・システム研究所附属未来エレクトロニクス集積研究センター センター長・教授

### (主な受賞歴、称号)

- 2014年11月 文化功労者、文化勲章
- 2014年12月 ノーベル物理学賞
- 2015年3月 名古屋大学特別教授
- 2015年4月 科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞 技術部門
- 2015年5月 中日文化賞

### (主な研究費獲得実績)

- 2016年度～2020年度 文部科学省「省エネルギー社会の実現に資する次世代半導体研究開発（中核拠点）」代表
- 2018年度～2022年度 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム  
「IoE社会のエネルギーシステム」代表
- 2020年度～2025年度 文部科学省 革新的パワーエレクトロニクス創出基盤技術研究開発事業  
「社会実装を目指したGaN縦型パワーデバイス作製技術の確立」代表



# 名古屋大学卓越教授として2名を選考

## <略歴>

○山内 悠輔 氏 1980年8月生・42歳

### (学歴)

- 2003年3月 早稲田大学理工学部応用化学科 卒業
- 2004年3月 早稲田大学大学院理工学研究科修士課程 修了
- 2007年3月 早稲田大学大学院理工学研究科博士後期課程 修了
- 2007年3月 博士(工学) (早稲田大学)

### (職歴)

- 2007年4月 独立行政法人物質・材料研究機構 若手国際研究拠点 定年制研究員
- 2007年10月 独立行政法人物質・材料研究機構 WPI-MANA 独立研究者 (PI)
- 2016年4月 国立研究開発法人物質・材料研究機構 グループリーダー・MANA主任研究者
- 2017年11月 オーストラリア クイーンズランド大学 テニユア教授
- 2023年4月 名古屋大学大学院工学研究科 教授 (クイーンズランド大学テニユア教授)

### (主な受賞歴)

- 2013年 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞
- 2016年 科学技術・学術政策研究所 科学技術への顕著な貢献 (ナイスステップな研究者)
- 2016年～2019年 Thomson Reuters Highly Cited Researchers (Chemistry部門)
- 2020年～2021年 Thomson Reuters Highly Cited Researchers (Chemistry部門、Materials Science部門)

### (主な研究費獲得実績)

- 2008年～2014年 科学技術振興機構 さきがけ (ナノシステムと機能創発)  
「次世代磁気記録媒体に向けたナノ構造制御システムの構築」代表
- 2020年～2026年 科学技術振興機構 ERATO「山内物質空間テクトニクスプロジェクト」代表
- 2017年～2020年 オーストラリア ARC Future Fellowships 代表
- 2019年～2023年 オーストラリア ARC Linkage Projects 代表
- 2019年～2022年 オーストラリア ARC Discovery Projects 代表



大学の研究力を高めるための象徴として、また、研究分野の拡大・形成を目指すため、**称号「卓越教授」を創設。**

「卓越教授」に対する高額な給与設定を可能とし、専門分野において世界水準の優れた業績を挙げ、さらなる研究の進展により、大学の名誉・研究力を著しく高めることが期待できる「若いライジングスター」の招へいを目指す。

- 【選考基準】 世界と伍する研究者および社会課題解決が期待される研究者について、以下の基準により総合的に判断し、称号「卓越教授」として選考する。  
ただし、学外から招へいする場合は、若いライジングスターを対象とし、原則として招へい時の年齢が45歳未満に限る。
- ・論文当たり被引用数、Top1%論文割合、Top10%論文割合、FWCI、h-index、外部資金獲得、特許件数その他の研究活動における指標の値が極めて高い者
  - ・受賞歴、出版物に係る実績および評価その他の考慮すべき事項がある者
- 【選考方法】 部局教授会の議を経た部局長または大学執行部（総長・副総長）の推薦に基づき、専門性および給与を含めて卓越教授選考委員会において審議した上で、運営会議において決定する。
- 【付与期間】 6年間。業績が選考基準を満たしている場合は、運営会議の確認を経て更新可能
- 【対象種別】 教授または特任教授
- 【給 与】 業績給または基本年俸の上限を適用せず、高額な給与の支給を可能とする。  
※具体的な給与額は、現職で受けている給与、業績等を総合的に考慮し、個別に検討・決定
- 【研究環境整備】
- ・研究に専念できる環境を保障（部局における管理運営業務の免除等）
  - ・招へいによる研究室移転、研究室立上げに係る諸費用（例：研究室員の雇用（最長2年間））等に係る支援

## 【資料2】

ディープレック・シリアルイノベーションセンターの  
設置について

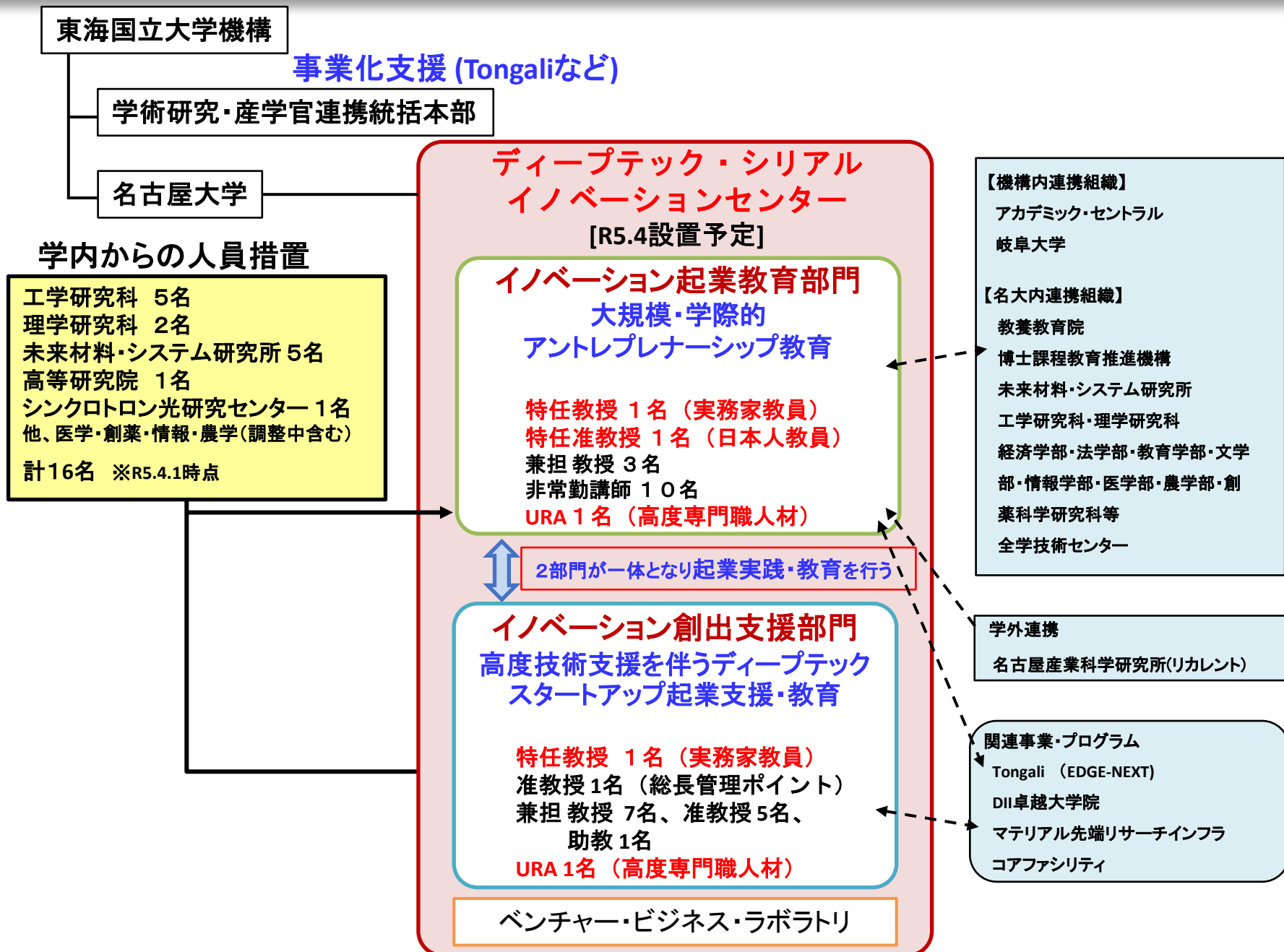


# 高度技術の社会実装を目指した 大規模・学際的アントレプレナーシップ教育

名古屋大学  
ディープレック・シリアルイノベーションセンター



# ディープテック・シリアルイノベーションセンターの概要



# スタートアップとアントレプレナーシップ教育の必要性

科学技術イノベーション・エコシステムの形成において  
スタートアップが重要視

科学技術イノベーションを起こすために重要な2つのこと

- ①スタートアップの革新性
- ②オープンイノベーションの推進

引用:内閣府総合科学技術・イノベーション会議  
統合イノベーション戦略2022より

イノベーションを起こし、社会課題を解決する担い手の育成が重要

アントレプレナーシップ教育：

- ・マインドセットの形成
- ・STEAM教育による文理の壁を打破
- ・マインドセット人材増加による少子化社会の活性化

→ 日本の全体的な意識・活力を底上げし、新しい変化・価値観に対応  
できる人材を輩出

# 社会的・経済的観点からの必要性

**スタートアップ** ➡ 社会的課題解決・経済活動の担い手として期待

特にディープレックベンチャーが注目

大学発ベンチャーのIPO率を全体と比較してみると...

引用：経済産業省「大学発ベンチャーデータベース」、STATUP DB「国内スタートアップ評価額ランキングレポート」より

IPO / 開業全体

0.01%

vs

2%

IPO / 大学発VB創業

200倍！

ディープレックベンチャーの優位性は？

ディープレック企業 / 国内未上場時価総額上位20社の

50%

すなわち年間**50社**のベンチャーを作れば、毎年**1社**はIPOを果たす

さらに、その50社が**ディープレック**であれば、更にその確率は上がることに期待

# 全学的なアントレプレナーシップ教育の必要性

直面する複雑な社会課題に対し、様々な学術領域の叡智と方法論を結集して、人類社会の未来を開く「総合知」を形成し、社会に提供することが重要

→ アントレプレナーシップは総合知のひとつ

## これからの大学教育

あらゆる変化に対応できる柔軟性を有し、新しい価値観を創造できる人材を輩出することが使命

企業（大企業・中小企業・スタートアップ問わず）が学生に求める能力とその予測

出典：経済産業省 「第5回 未来人材会議」

2015年

- 第1位 注意深さ・ミスが無いこと
- 第2位 責任感・まじめさ
- 第3位 信頼感・誠実さ

2050年

- 第1位 問題発見力
- 第2位 的確な予測
- 第3位 革新性※

※新たなモノ・サービス・方法を創り出す能力

# 日本の大学におけるアントレプレナーシップ教育の現状と課題

現状: アントレ教育科目の履修率が低い・大学発ベンチャーのプレイヤーが少ない  
(文科省と経産省の共通の見解)

## 日本の大学の取り組み状況



アントレ教育  
実施大学率 **27%**



アントレ教育  
受講学生率 **1%**



アントレ教育  
年間予算 **予算無し  
35%**



技術支援  
外部機関連携 **不十分**

## 名大工学研究科の取り組み状況

アントレプレナー  
シップ教育  
カリキュラム

- ・DII
- ・VB特論 I & II
- ↑大学院プログラム

アントレプレナー  
シップ教育  
受講学生率 **70%**

工学研究科生 約700人  
に対して約500人程度履修  
(VB特論 I)

教育予算  
技術支援

- ・VBL、ARIM等

技術支援に関しては充実

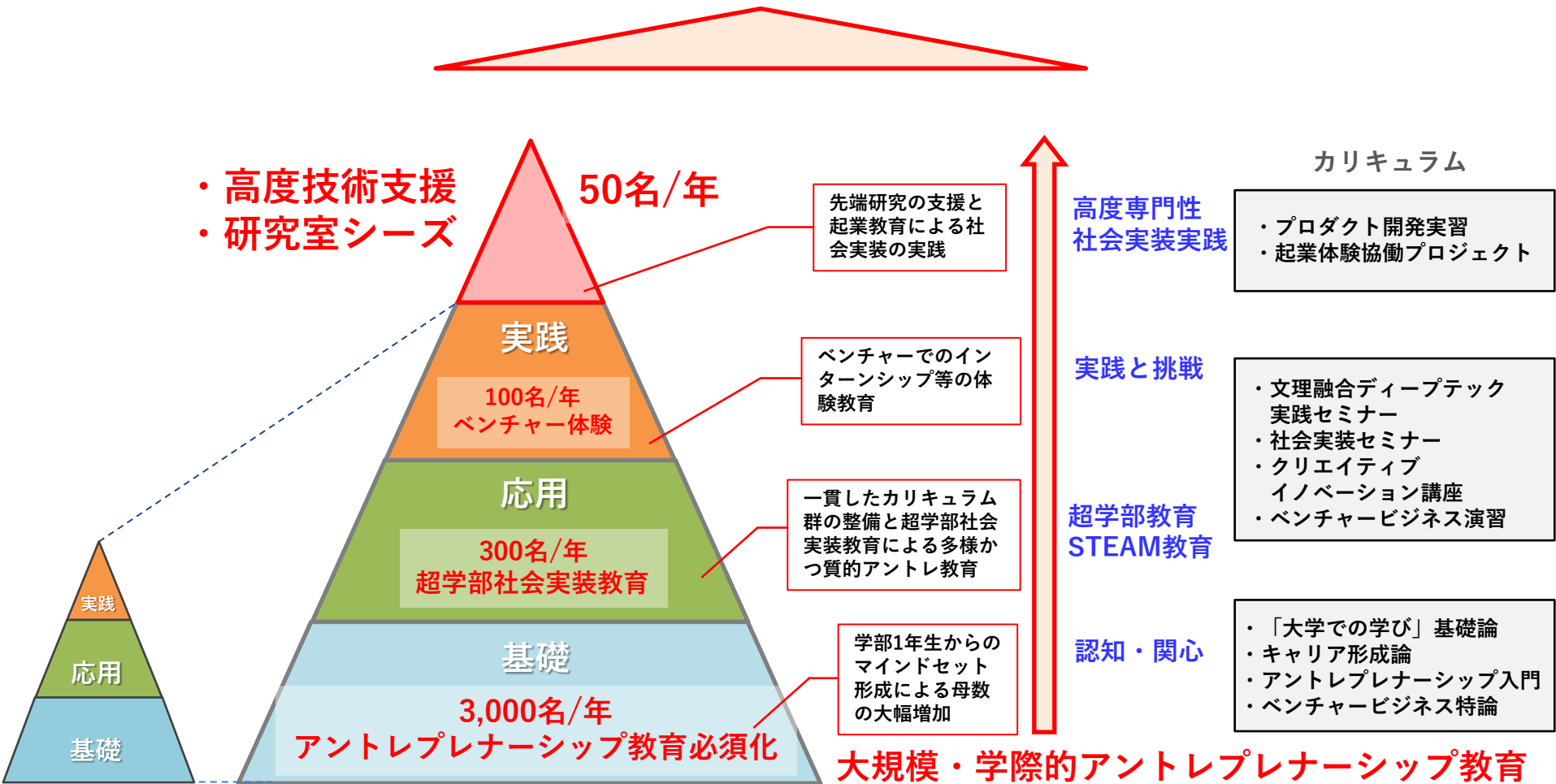
他大学と比較して設備や支援体制はある

### 課題:

- ・教育のタイミングが遅い(裾野拡大が必要)
- ・技術と経営の両面の知識をもつ高度人材や経営者の育成(学際的アントレプレナーシップ教育が必要)

# 高度技術の社会実装を目指した大規模・学際的アントレプレナーシップ教育

- 高度技術と経営の両面の知識をもつ多様な高度人材（研究者・経営者）の輩出
- 高度技術支援による先端研究に基づくディープテックベンチャーの創出
- 困難に立ち向かい新しい価値観を生み出せる勇気ある人材を輩出



## ディープテック・シリアルイノベーションセンターの目的と効果

大学入学時から大学院学生、社会人に至るまで、量・質の充実した系統的なアントレプレナーシップ教育を正規科目として提供

# アントレプレナーシップ教育を大規模に行うことの必要性

ベンチャー起業数の増加



経済的な貢献・インパクトへの期待

※大学発ベンチャーが1社IPOした場合でも経済的効果は年間100億円以上、アカデミックへの経済効果も大！

ただし、、、日本の多くの学生



一般企業への就職を希望  
(名古屋大学工学研究科で9割以上)

**解決策：学部学生全員へのアントレプレナーシップ教育を実施**

効果その1：マインドセットを持つ人材の増加

効果その2：STEAMにおいて求められるアントレ人材を社会に供給

効果その3：マインドセット人材増加による少子化社会の活性化



**結果：企業だけでなく、日本の全体的な意識・活力を底上げし、新しい変化・価値観に対応できる人材を輩出**

アントレプレナーシップ教育を大学全体で  
さらには全国大学で大規模で実施することが必要不可欠

# 大規模・学際的アントレプレナーシップ教育：カリキュラム案

目論見：起業を志し技術・経営の両面の見識もつ学生の増加と起業力を育てる

ポイント：

- ・全入学生のアントレプレナーシップ教育の初歩を必修化：「自分も関係あるかも」と関心をもたせる
- ・学部3年次～4年次の超学部教育：学部専門に囚われず起業体験
- ・DIIで開発の協同プロジェクト等を大学院正規科目化：ディープテックベンチャー起業の実践

博士・PD  
社会人



修士・博士



B3・B4・修士

STEAM教育



- ・異分野技術の基礎
- ・リカレント科目

B1・B2



・「大学での学び」基礎論  
(3000人/年)

- ・キャリア形成論
- ・アントレプレナーシップ入門

- ・超学部セミナー  
「文理融合ディープ  
テック実践セミナー」

- ・超学部セミナー  
「社会実装セミナー」

- ・クリエイティブイノベーション講座

- ・アントレプレナー/イントレプレナーインターンシップ

- ・大学院共通科目  
「ベンチャービジネス特論」  
「ベンチャービジネス演習」

- ・大学院共通科目  
「プロダクト開発実習」  
「起業体験協働プロジェクト」

認知・関心  
領域

超学部教育  
領域

実践と挑戦  
領域

高度専門性と  
社会実装実践



# 大規模・学際的アントレプレナーシップ教育：コースツリー

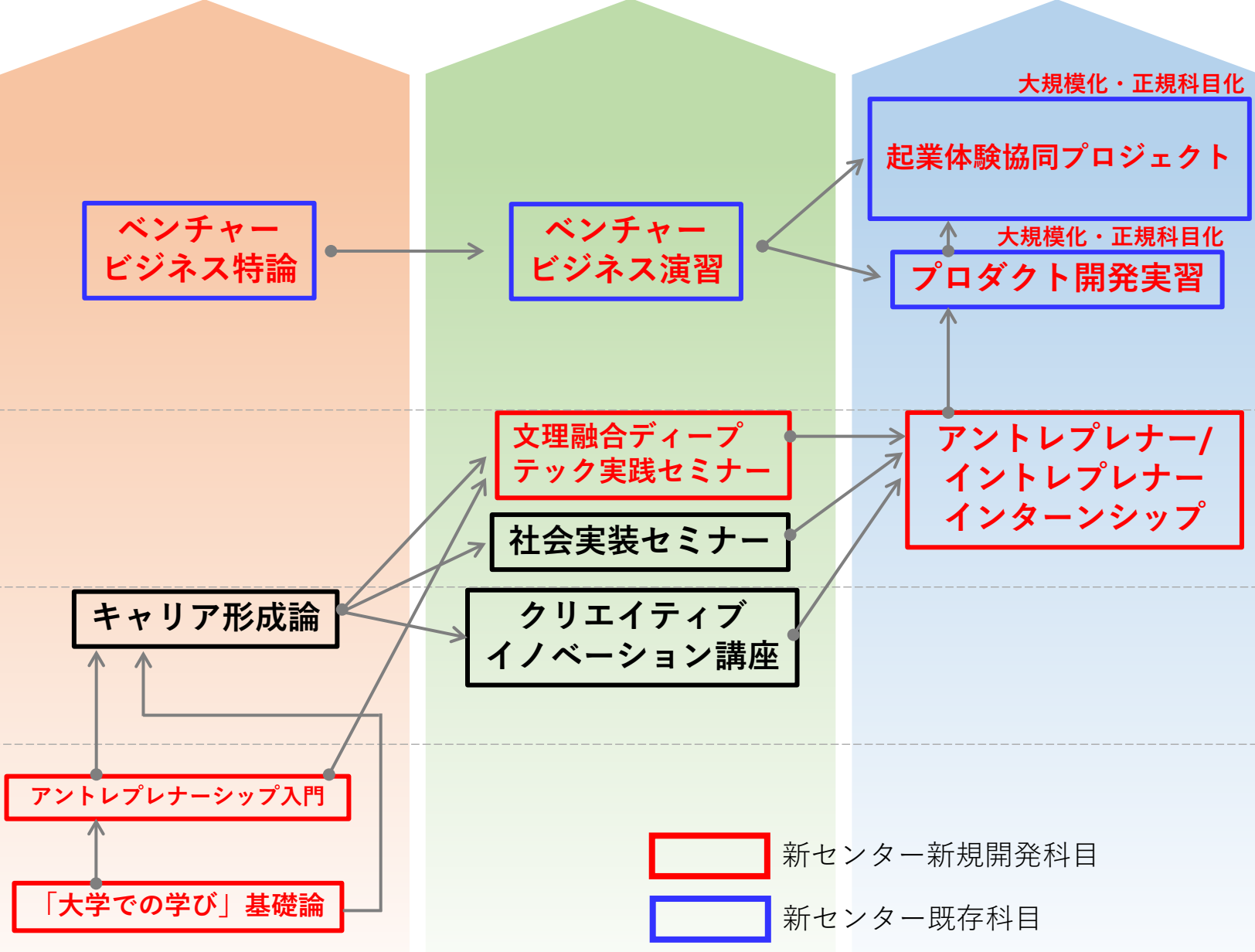
B1からの裾野拡大を行い起業率UP!

## 講義科目

## 演習科目

## 実習科目

D  
M  
B3  
B4  
B2  
B1



# 本提案における特徴的な試み

## 目玉その1:「大学での学び」基礎論

必修科目である「大学での学び」基礎論においてアントレプレナーシップ教育を授業内容に含めることで、**アントレプレナーシップ全学全員教育**を実現

## 目玉その2: 大学STEAM教育

ディープテックベンチャー創出には文理問わず科学リテラシーの底上げが必要  
超学部セミナーにおいて、文理融合科学教育を実施。理系研究室インターン等も行う

## 目玉その3: アントレプレナー/イントレプレナーインターンシップ

博士課程で進められている**ジョブ型インターンシップ**を学部生にまで**拡大**し、ベンチャー企業や大企業の新規事業創出を体験するインターンシップを実施。学部におけるアントレプレナーシップ教育の集大成的な位置づけにする。このインターンを受けるには、指定された科目の履修を必須とすることで、一連のカリキュラム履修の動機づけとする。

## 目玉その4: 起業体験協同プロジェクト

実際に大学のシーズを使ったディープテックベンチャーの起業から、ベンチャーにおける技術開発やビジネスなどを体験する。

# 学際的アントレプレナーシップ教育による高度技術社会実装人材の育成

## 効果的な高度技術社会実装教育

学際的アントレプレナーシップ教育による高度技術とビジネスの両面の知識をもつ高度人材育成

ビジネスに理解  
のある研究者



テクノロジーに理解  
のある経営者

### STEAM教育

#### 超学部セミナー

- ・社会実装セミナー
- ・アントレプレナー/  
イントレプレナーインターンシップ
- ・デザイン思考演習

学部の枠を  
超えた  
アントレ  
プレナーシップ  
教育

シーズ提供  
若手教員参画

大学の研究室



大学発ベンチャー

インターンシップ  
実装提案

大企業



研究室や大学発ベンチャー、  
ステークホルダーと連携し、  
超学部セミナーを発展

# 新センターのアントレプレナーシップ教育の他組織との関係性

社

名古屋大学 未来社会創造機構  
INSTITUTES OF INNOVATION FOR FUTURE SOCIETY

## イノベーション 創出支援部門

- ・ベンチャー技術支援
- ・オフィスラボ機能



※新規開設

ARIMや全学技術センターと連携  
大学の研究シーズを発展させ、  
ディープテックを社会実装するた  
めの技術支援や高度技術教育を担当

D・M



※既設コース

- ・ベンチャービジネス特論1・2
- ・最先端理工学実験・特論

連携



- ・卓越大学院プログラム  
履修者：15名/年
- ・プロダクト開発実習
- ・起業体験協同プロジェクト

連携

名古屋大学  
教養教育院

B3・B4



連携

## イノベーション 起業教育部門

※大規模・学際的アントレプレナーシップ教育  
3000名/年

※新規開設

- ・「大学での学び」基礎論
- ・アントレプレナーシップ入門
- ・デザイン思考演習
- ・社会実装セミナー
- ・アントレプレナー/イントレプレナー  
インターンシップ

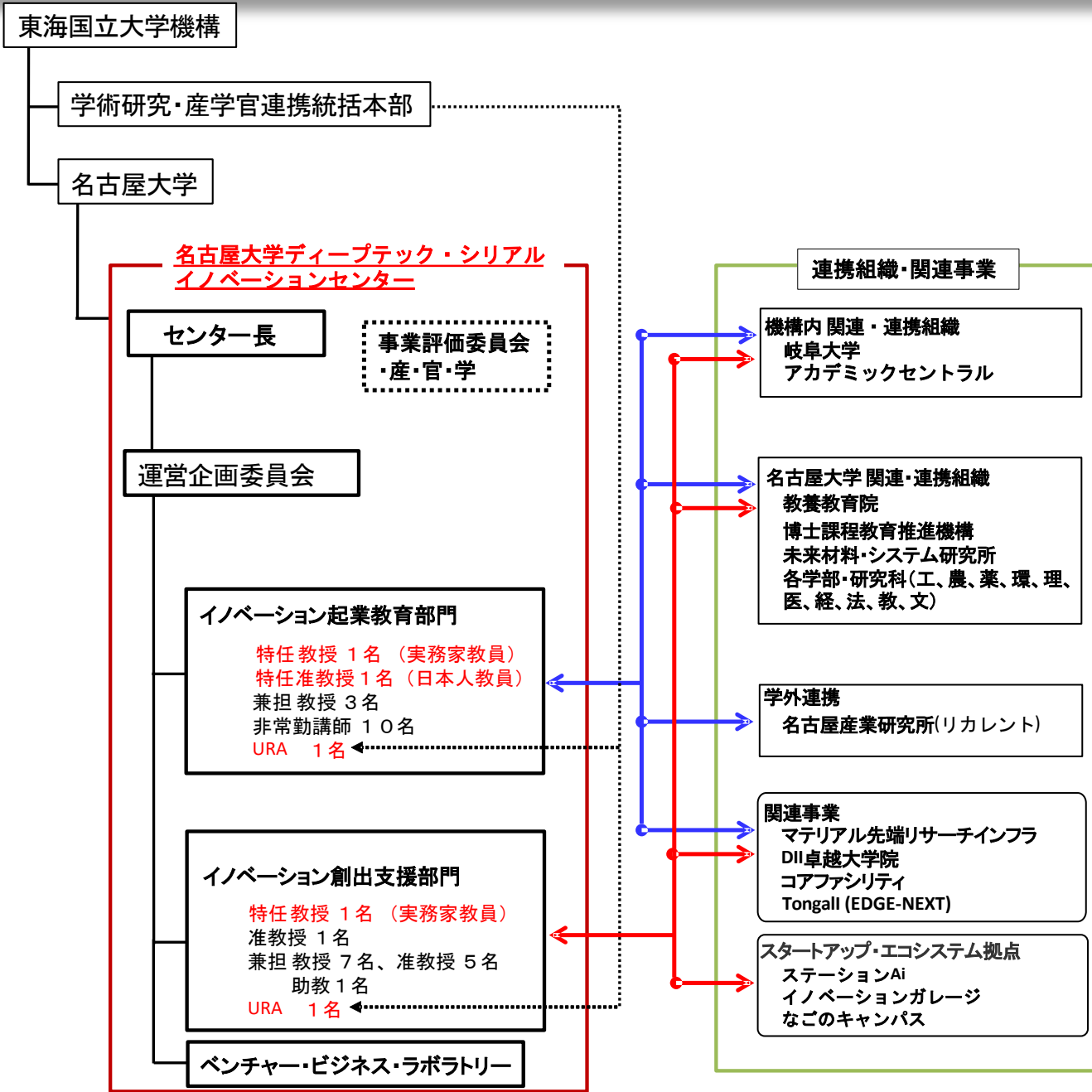
DIIやTongaliと連携  
Tongali(課外活動)の発展形  
これまで手薄だった学部学生の  
アントレプレナーシップ教育を正規科目として  
大規模に行うことで裾野拡大を行う

B1・B2



- ・EDGE-NEXTプログラム, START
- ・東海における大学の  
1年間のビジネスコンテスト

# ディープテック・シリアルイノベーションセンターの組織図



# イノベーション起業教育部門

## 活動内容

- ・技術シーズを社会実装する力をもつ人材（研究者と経営者）の新たな教育方法の確立
- ・大規模・学際的アントレプレナーシップ教育カリキュラムの策定・推進
- ・超学部セミナー科目の設計と開講

## 教員 特任教授 1名（実務家教員）：

任務：アントレプレナーシップ教育の統括、カリキュラム設計・構築

人材像：アントレプレナーシップ教育を専門とする人材、起業経験が豊富な人物、人材教育の経験のある人物

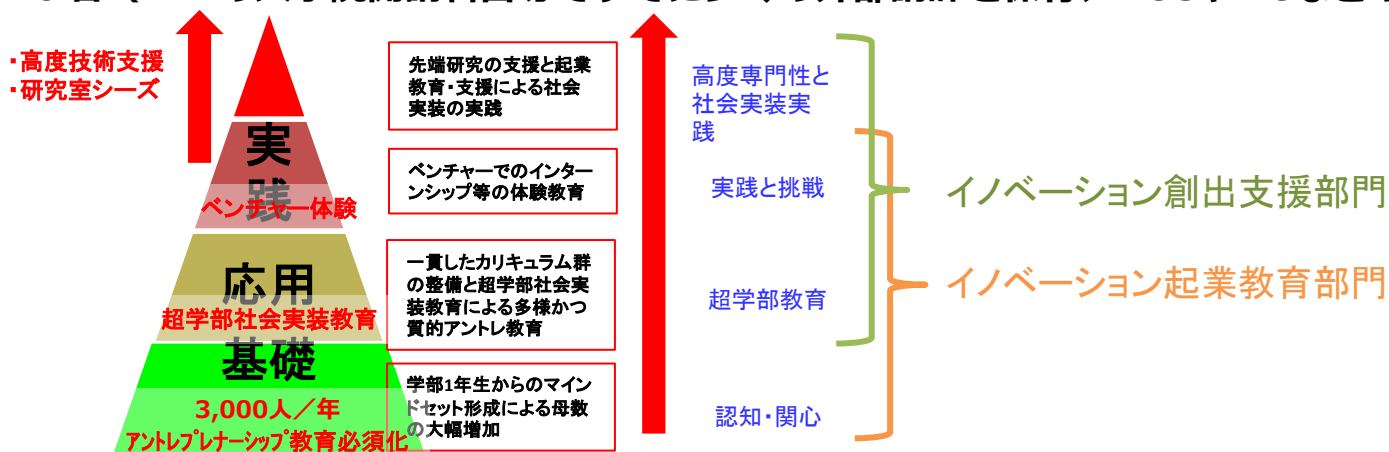
## 特任准教授 1名（日本人教員）：

任務：大規模・学際的アントレプレナーシップ教育の実施

人材像：起業とアントレプレナーシップ教育に熱意をもつ若手人材

## 兼任教授 3名（工学部、未来研、ベンチャー経験者・アントレプレナーシップ教育実践者）： 社会実装セミナー、インターンシップ

## 外部教員 10名（VBLの大学院開講科目等ですでに多くの外部講師を保有、NUSやNCなどの海外も含む）



大規模・学際的アントレプレナーシップ教育

# イノベーション創出支援部門

## 活動内容

- ・大学シーズを社会実装させるための技術支援と人材教育
- ・ディープテックラボにおける高度技術支援を伴う人材教育

**教員** **特任教授 1名（実務家教員）**：高度技術の社会実装の支援・教育を統括  
**人材像**：ディープテックベンチャー経験者、シリアルアントレプレナー、人材教育にも熱意のある人物

**専任准教授 1名（総長管理ポイント）**：高度研究支援、開発ラボ整備

**関連支援教員** 兼任教授7名、准教授5名、助教1名：研究シーズ・技術の提供、インターンシップ協力等

アントレプレナーシップ人材（ビジネス人材、技術人材）、スタートアップ、挑戦したい企業

## ディープテック・シリアル イノベーションセンター

ディープテックシーズの提供  
・東海機構関連教員

工学、農学、理学、医学、  
創薬 など

### シーズ技術の応用支援（装置群）

- ・ 試作・デモ用装置
- ・ 生産技術開発用装置
- ・ 品質評価装置など

### 高度技術支援体制（高度人材群）

- ・ 試作・デモ開発
- ・ 様々な評価装置オペレータ
- ・ 生産技術・品質評価の専門家など

### ネットワーク

- ・ 他大学
- ・ 他機関
- ・ 企業など

### 多彩なメンター

- ・ 企業メンター
- ・ ビジネスメンター

# 【資料3】

本学のスタートアップ戦略について



# スタートアップ共成長パッケージ

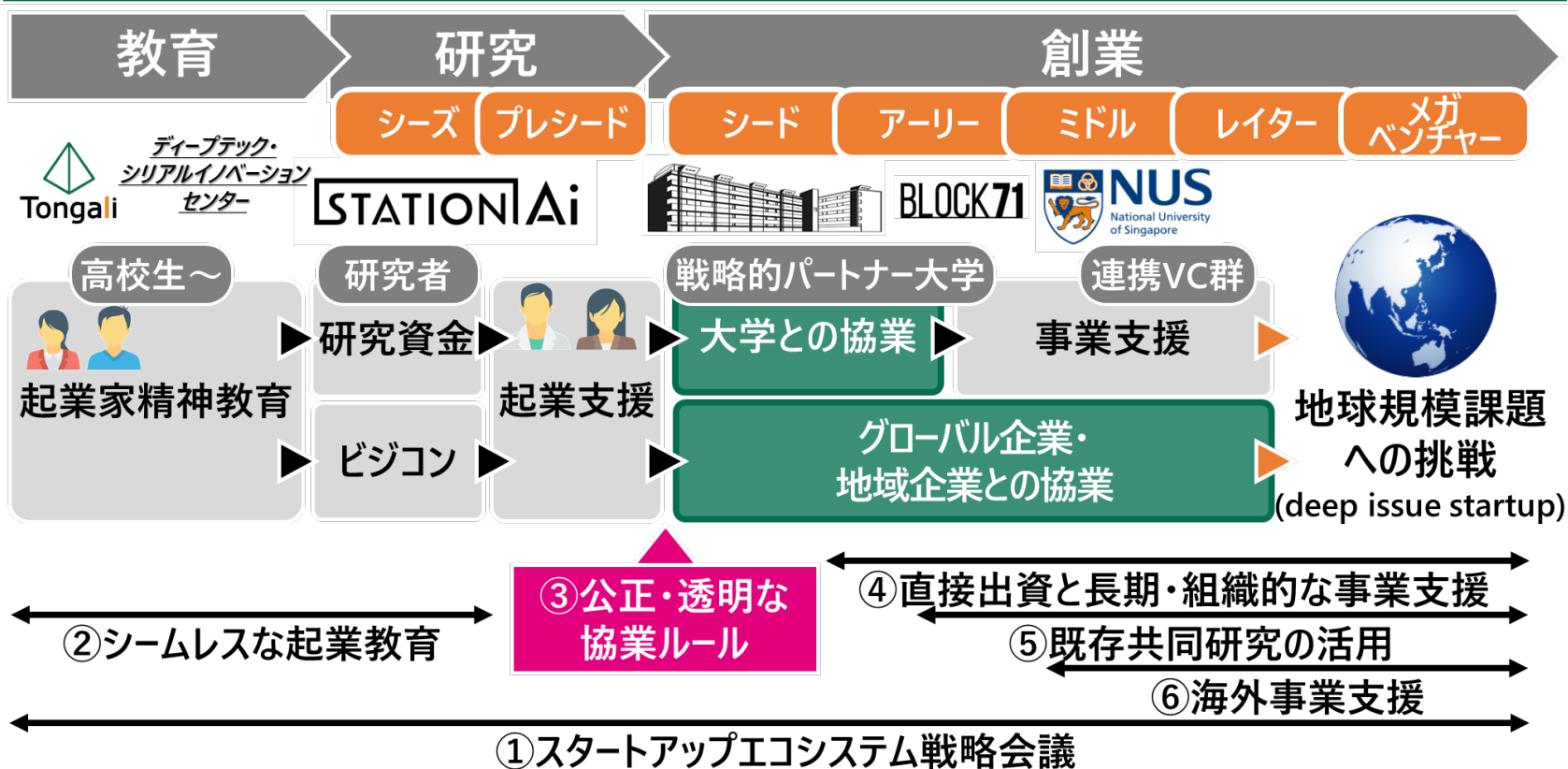
一貫した支援と協業によりスタートアップエコシステムを共に創造



## 施策のポイント

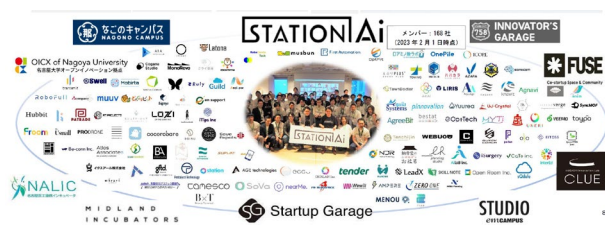
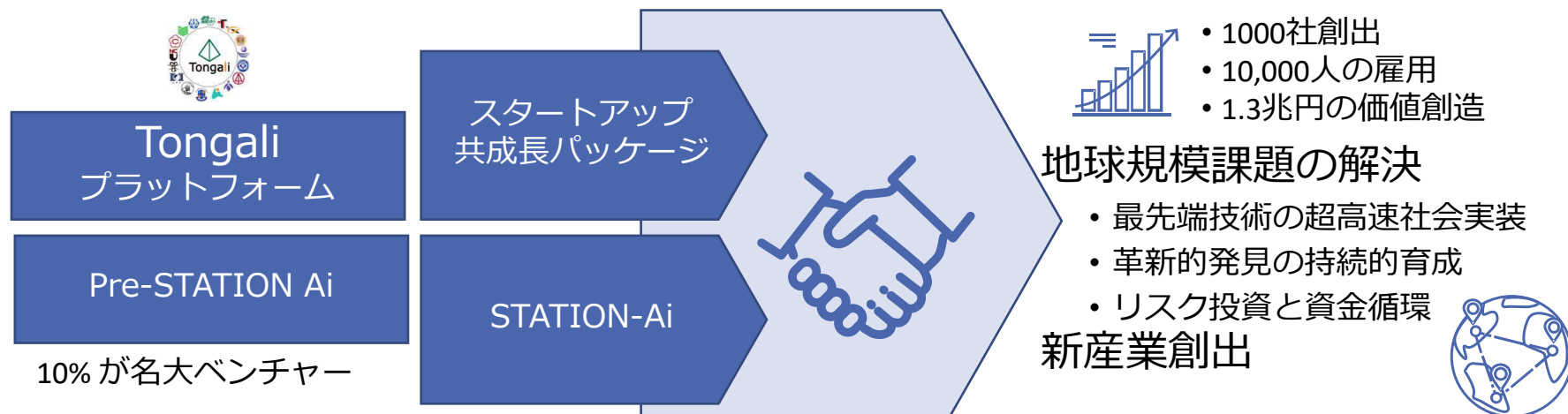
- 全学生に対するシームレスな起業教育
- スタートアップと大学との公正・透明な協業
- 連携VCと協力した長期・組織的な支援、既存共同研究の活用
- 国内最大拠点(STATION Ai)海外大と連携したエコシステムの形成

## スタートアップ共成長パッケージ ～「支援」から「協業」への転換～



# スタートアップ共成長パッケージ

## STATION Ai をコアとした地域産学官連携



- 協調実施事業群**
- Tongali School II
  - 海外研修（米：SXSW, 仏：Station F, 星：Block 71）
  - STAPS ワークショップ他



- **Global GDP 1% を生み出す製造産業圏**
  - 資本、技術、人材、サプライチェーン
- **地域産学官の連携組織：Aichi-Nagoya Startup Ecosystem Consortium**
  - KPIの30%を名古屋大学で達成（創業 42社/3年、資金調達 250億円/3年）
- **国内最大スタートアップ支援施設 STATION Ai**
  - 2.3万㎡（1000社）、国際連携（Block71@シンガポール, Station F@ フランス）他）、10%が名古屋大学発

# スタートアップ共成長パッケージ

シンガポール国立大/Block71 連携をコアとした国際連携



NUS Overseas Campus  
名古屋大学ベンチャーでの学生インターン



STATION Ai



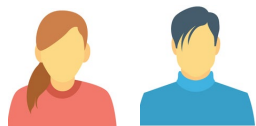
愛知県

Block 71



ピッチ・セミナー

- Tongali School II
- SXSW派遣、Creative Industries Expo 出展
- STAPS ワークショップ



Tongali 海外武者修行  
Block71 を活用した研修



名古屋大学  
NAGOYA UNIVERSITY

## シンガポール国立大学との連携



NUS enterprise との情報交換



タン学長と杉山総長



超異分野カンファレンス@シンガポールで挨拶する松尾機構長と発表する名大ベンチャー



- スタートアップ施策のヘッドクォーター（東海機構SUE戦略会議）
- シームレスな起業家教育（ディープテック・シリアルイノベーションセンター）
- 公正透明な協業ルール（スタートアップ・インテグリティプラン）
- VCとの協業と大学からの投資（連携VC/機構VC）
- 既存共同研究成果の活用
- 海外連携大学との協業（東南アジアの社会課題探索）

- Aichi-Nagoya Startup Ecosystem Consortium：Global GDP 1% を生み出す製造産業圏
  - 資本、技術、人材、サプライチェーン
- STATION Ai：国内最大のスタートアップ支援施設
  - 2.3万㎡、国際連携（Block71（シンガポール国立大））
- Tongali：地域 20大学を結ぶ起業家育成プラットフォーム
  - 5000+ 受講生, ピッチ, Lean startup, GAP fund
- ティアフォーモデル：教員と博士学生の連携起業例
  - 採用、技術支援、資本提携、事業協業

# 【資料4】

令和7年度以降の名古屋大学理学部における  
入学者選抜の変更について

# 令和7年度以降の名古屋大学理学部 における入学者選抜の変更について



# 令和7年度以降の入学者選抜の変更について

1. 総合型選抜の導入
2. 学校推薦型選抜の変更
3. 一般選抜の科目と配点の変更  
(令和5年3月1日公表済み)



# 1.総合型選抜の導入

## 1) 共通テストを課す総合型選抜

1月～2月実施 数理学科, 物理学科, 地球惑星科学科で導入  
共通テストの成績及び書類選考提出書類による第1次選考の  
のち, 各学科で実施する選考により合格者を決定する。

## 2) 共通テストを課さない総合型選抜

11月～12月実施 化学科, 生命理学科で導入  
提出書類による第1次選考ののち, 各学科で実施する選考により  
合格者を決定する。

※2年次の学科分属次には, **優先的に合格した学科に分属する。**

※現役及び既卒(1浪)まで出願資格あり

# 1.総合型選抜の導入(アドミッション・ポリシー)

## (1)入学者受入れの方針

自然界を貫く真理の探究に挑むため、総合的な基礎学力に加えて理学の諸分野における幅広い教養と深い知識を持ち、チャレンジ精神と知的好奇心に満ちあふれた、瑞々しい創造力をもつ人を求めています。

## (2)総合型選抜(大学入学共通テストを課す)の基本方針

総合型選抜では、**専門分野への強い知的好奇心とチャレンジ精神を持った学生を選抜するため**、学科独自の選考を行います。大学入学共通テストにより基礎学力を測ると共に、提出書類により高校での学習成果や様々な活動への自主的な取組状況を、面接により専門分野に対する理解力、表現力、説明力を評価します。

## (2)総合型選抜(大学入学共通テストを課さない)の基本方針

総合型選抜では、**専門分野への強い知的好奇心とチャレンジ精神を持った学生を選抜するため**、学科独自の選考を行います。提出書類により高校での学習成果や、様々な活動への自主的な取組状況を評価します。また、専門科目に対するチャレンジ精神、知的好奇心、表現力、説明力などを基礎学力とともに、学科の実施する小論文および面接(口頭試問)により評価します。

# 1) 共通テストを課す総合型選抜(数理学科)

●大学入学共通テストの教科: 数学, 理科(2科目), 外国語

●募集人員 3名

●提出書類 ①入学志願票・写真票 ②調査書 ③志願理由書(以下を記載)

1. 名古屋大学理学部を志望する理由

2. 数学・数理科学について興味をもっていること, 将来的に期待すること

3. これまでの学習などを通じて興味を持った数学の内容, あるいは理数探究などで研究・探究した数学の内容

●選抜方法:

提出された書類並びに大学入学共通テストの成績を総合的に評価し, 第1次選考合格者(面接受験者)を決定する。

第1次選考合格者に対し, 第2次選考として口頭試問による面接を実施し, 合格者を決定する。

# 1) 共通テストを課す総合型選抜(数理学科)

## ● 大学入学共通テストの配点

数学	理科	外国語	合計
700	200	100	1000

## ● 入試区分の配点

	共通 テスト	書類	面接	合計
第1次選考	500	500	—	1000
第2次選考	150	150	700	1000

※共通テストの得点については、第1次選考では500点、第2次選考では150点に換算します。

# 1) 共通テストを課す総合型選抜(物理学科)

●大学入学共通テストの教科: 数学, 理科(2科目 物理を含む), 外国語

●募集人員 9名

●提出書類 ①入学志願票・写真票 ②調査書 ③志願理由書(以下を記載)

1.名古屋大学理学部を志望する理由

2.あなたが物理を学びたい理由, 物理を学ぶことによるあなた自身の将来像

3.日常生活で物理を実感したエピソード

4.物理への興味を深める上で, 今まで特に意識して学習したことや通常の授業以外の活動

5.自分の長所とそれを裏付ける事例(部活動などを含む)

●選抜方法:

提出された書類並びに大学入学共通テストの成績を総合的に評価し, 第1次選考合格者(面接受験者)を決定する。

第1次選考合格者に対し, 第2次選考として口頭試問による面接を実施し, 合格者を決定する。

# 1) 共通テストを課す総合型選抜(物理学科)

## ● 大学入学共通テストの配点

数学	理科	外国語	合計
300	物理：300 その他：100	100	800

## ● 入試区分の配点

	共通 テスト	書類	面接	合計
第1次選考	800	100	—	900
第2次選考	800	100	200	1100

# 1) 共通テストを課す総合型選抜(地球惑星科学科)

- 大学入学共通テストの教科:

国語, 地理歴史・公民, 数学, 理科(2科目), 外国語, 情報

- 募集人員 3名

- 提出書類 ①入学志願票・写真票 ②調査書 ③志願理由書(以下を記載)

1.名古屋大学理学部を志望する理由

2.地球惑星科学について興味をもっていること, 将来的に期待すること

- 選抜方法:

提出された書類並びに大学入学共通テストの成績を総合的に評価し, 第1次選考合格者(面接受験者)を決定する。

第1次選考合格者に対し, 第2次選考として口頭試問による面接を実施し, 合格者を決定する。

# 1) 共通テストを課す総合型選抜(地球惑星科学科)

## ● 大学入学共通テストの配点

国語	地理 歴史・公 民	数学	理科	外国語	情報	合計
100	50	300	300	200	50	1000

## ● 入試区分の配点

	共通 テスト	書類	面接	合計
第1次選考	300	100	—	400
第2次選考	300	100	200	600

※共通テストの得点については、第1次選考及び第2次選考では300点に換算します。



## 2) 共通テストを課さない総合型選抜(化学科)

### ●出願要件

- (1) 化学分野の学問・研究に強い興味と情熱をもつ者
- (2) 自己推薦により自らの化学に対する興味と情熱を明確に示せる者
- (3) 合格した場合に、必ず入学することを確約できる者

### ●募集人員 5名

- ### ●提出書類
- ① 入学志願票・写真票
  - ② 調査書
  - ③ 志願理由書
  - ④ 自己推薦文
  - ⑤ 小論文

### ●選抜方法: 3段階で選抜を実施する

第1次選考: 書類選考                      第2次選考: 小論文

第3次選考: 口頭試問を含めた面接選考

※第1次選考及び第2次選考の小論文テーマ(例)についてはホームページで公開

## 2) 共通テストを課さない総合型選抜(化学科)

### ●入試区分の配点

	書類	小論文	面接選考	合計
第1次選考	100	—	—	100
第2次選考	100	100	—	200
第3次選考	—	100	200	300

※第2次選考では、第1次選考での書類の得点及び第2次選考で実施する小論文の得点で選考します。  
※第3次選考では、第2次選考の小論文の得点及び第3次選考で実施する口頭試問を含めた面接選考の得点で選考します。

# 2) 共通テストを課さない総合型選抜(生命理学科)

## ●出願要件

(1)生物学の研究に強い興味をもつ者

(2)以下 a ~ g に相当する研究プログラムやコンテスト等で入賞あるいは上位の成績を修めたなどの活動実績のある者

(3)合格した場合に、必ず入学することを確約できる者

a:グローバルサイエンスキャンパス(GSC)全国受講生研究発表会 b:日本学生科学賞(JSSA)

c:JSEC(Japan Science & Engineering Challenge) d:三菱みらい育成事業 カテゴリー3(名大みらい育成プロジェクトなど)

e:日本学術会議協力学術研究団体主催の学会での研究発表 f:スーパーサイエンスハイスクール(SSH)生徒研究発表会(全体会)

g:上記以外の生物学の優れた自由研究や課題研究の発表(研究発表を公的に証明できること:提出書類参照)

※入学者選抜要項の発表(2024年6月頃)までに上記 a ~ f に該当する企画が中止した場合、あるいは同様な研究プログラムやコンテストが新たに行われたときには変更、追加する場合がある

## ●募集人員 5名

●提出書類 ①入学志願票・写真票 ②調査書 ③志願理由書 ④研究報告書 ⑤志願者評価書

⑥出願要件(a~g)を証明する資料

●選抜方法:2段階で選抜を実施する 第1次選考:書類選考 第2次選考:総合選考

第2次選考(総合選考)では生命科学分野の講義に基づく小論文及び第1次選考時の書類に基づく面接で選考する。

## 2) 共通テストを課さない総合型選抜(生命理学科)

### ●入試区分の配点

	書類	総合選考	合計
第1次選考	100	—	100
第2次選考	—	100	100

※第2次選考の結果に基づき合格者を決定します。

## 2.学校推薦型選抜の変更

- ①実施時期： [変更なし] 1月下旬～2月上旬  
(出願時期：共通テスト後1週間)
- ②募集学科： [変更なし] 指定なし。理学部として募集する。
- ③募集人員： [変更あり] 30名
- ④試験方法： [変更あり] 提出書類と共通テストの成績をもとに、書類選考を行う。
- ⑤提出書類： 志願理由書・推薦書・任意提出書類
- ⑥合格発表： [変更なし] 2月中旬

※共通テストを課す総合型選抜と学校推薦型選抜の併願は不可とする。

※共通テストを課さない総合型選抜と学校推薦型選抜の併願は可能。

従前は、書類選考で25名、面接選考で25名の合格者を出し、合計50名の定員で実施してきたが、令和7年度以降は、書類選考のみとして30名の定員で実施する。

# 3.一般選抜の科目と配点の変更(3月1日公表済み)

- ①個別学力検査の科目から「国語」を廃止する。
- ②大学入学共通テストの科目に「情報」の追加とともに大学入学共通テスト及び個別学力検査の配点を以下のとおりに変更する。

大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等								
教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜	試験の区分	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	情報	小論文	配点合計
国 地歴 公民 数理 外情	国 地総・地探, 歴総・日探, 歴総・世探 } から 1 公・倫, 公・政経 数Ⅰ・数Aと数Ⅱ・数B・数C 物, 化, 生, 地学から 2 英, 独, 仏, 中, 韓から 1 情Ⅰ [6教科8科目]	数理  外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C 物基・物, 化基・化, 生基・生, 地学 基・地学から 2 英 (「英語コミュニケーションⅠ」・「英語コミュニケーションⅡ」・「英語コミュニケーションⅢ」・「論理・表現Ⅰ」・「論理・表現Ⅱ」・「論理・表現Ⅲ」の6科目をあわせて出題。)	実施しない	共通テスト	300	100	100	100	250	50		900
					個別学力検査			600	600	300		1500	
					計	300	100	700	700	550	50		2400

※従前の共通テスト及び個別学力検査における「物理」又は「化学」を選択する制限は撤廃しています。

# 【参考】令和7年度以降の募集人員

学科	一般選抜 (前期日程)	総合型選抜		学校推薦型選抜	合計
		共通テストを課す	共通テストを課さない		
数理学科	2 1 5	3		3 0	2 7 0
物理学科		9			
化学科			5		
生命理学科			5		
地球惑星科学科		3			

# 【資料5】

令和5年度学校推薦型選抜  
工学部女子枠の選考結果について



令和5年度学校推薦型選抜 学部・学科出願状況（工学部）

学部・学科等名		募集人員	志願者数	志願倍率	令和4年度			前年比		
					募集人員	志願者数	志願倍率	志願者数	志願倍率	
工学部	化学生命工学科	9	26	2.9	9	20	2.2	+6	+0.7	
	物理工学科	8	16	2.0	8	12	1.5	+4	+0.5	
	マテリアル工学科	11	25	2.3	11	23	2.1	+2	+0.2	
	電気電子情報工学科	一般枠	6	33	5.5	11	27	2.5	+15	+1.0
		女子枠（併願含む）	6	9	1.5					
	機械・航空宇宙工学科	15	38	2.5	15	46	3.1	-8	-0.6	
	エネルギー理工学科	一般枠	3	10	3.3	4	5	1.3	+10	+1.2
		女子枠（併願含む）	3	5	1.7					
	環境土木・建築学科	環境土木工学プログラム	4	11	2.8	4	7	1.8	+4	+1.0
		建築学プログラム	4	7	1.8	4	15	3.8	-8	-2.0
小計		69	180	2.6	66	155	2.3	+25	+0.3	

令和5年度 工学部 学校推薦型選抜 実施状況一覧

学科名	履修プログラム名		※1									※2						
			平成31年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
			募集人員	志願者	合格者	募集人員	志願者	合格者	募集人員	志願者	合格者	募集人員	志願者	合格者		募集人員	志願者	合格者
化学生命工学科			9	25	7	9	19	8	9	16	9	9	20	9		9	26	9
	男			18	4		8	3		11	5		12	7			17	2
	女			7	3		11	5		5	4		8	2			9	7
物理工学科			8	13	7	8	8	5	8	11	8	8	12	8		8	16	8
	男			12	6		7	4		11	8		12	8			14	8
	女			1	1		1	1		0	0		0	0			2	0
マテリアル工学科			11	27	11	11	22	11	11	19	11	11	23	11		11	25	11
	男			15	5		20	10		17	10		18	6			24	10
	女			12	6		2	1		2	1		5	5			1	1
電気電子情報工学科			11	23	9	11	32	11	11	14	8	11	27	11	一般枠	6	33	6
	男			20	7		26	5		13	7		24	11	男		33	6
	女			3	2		6	6		1	1		3	0	女		0	0
															女子枠 (併願含)	6	9	6
機械・航空宇宙工学科			15	51	11	15	46	14	15	38	15	15	46	15		15	38	15
	男			46	9		40	13		34	13		42	14			31	12
	女			5	2		6	1		4	2		4	1			7	3
エネルギー理工学科			4	16	4	4	8	4	4	8	3	4	5	3	一般枠	3	10	3
	男			15	4		8	4		6	2		4	2	男		10	3
	女			1	0		0	0		2	1		1	1	女		0	0
															女子枠 (併願含)	3	5	3
環境土木・建築学科	環境土木工学プログラム	男	8	7	4	8	8	4	8	13	4	4	7	4		4	11	4
		女		2	1		5	2		12	3		3	2			9	4
		5		3	3		2	1		1		4	2			2	0	
	建築学プログラム			11	3		9	4		10	3	4	15	4		4	7	3
		男		5	1		7	2		4	1		9	2			4	2
	女	6		2	2		2	6		2		6	2				3	1
合計			66	173	56	66	152	61	66	129	61	66	155	65		69	180	68
	男			133	37		121	43		108	49		124	52			142	47
	女			40	19		31	18		21	12		31	13			38	21
女子の比率			23.1%	33.9%		20.4%	29.5%		16.3%	19.7%		20.0%	20.0%			21.1%	30.9%	

※1 R4年度入試から環境土木・建築学科はプログラム別(環境土木工学4, 建築学4)に募集。

男 女 は、すぐ上の行の数値の内訳

※2 R5年度入試から女子枠設置。電気電子情報工学科(一般枠6・女子枠6)、エネルギー理工学科(一般枠3・女子枠3)

# 【資料6】

4月の行事予定表について

行事予定

開催日	行事等の正式名称	概要(場所・時間・講演内容・講演者・入場料など)	連絡先及び内線番号	URL
10月11日(火)～ 5月6日(土)	東海国立大学機構連携企画 博物館第29回特別展 「岐阜大・名古屋大 博物館コラボ展」	場所:博物館 時間:10:00～16:00(入館15:30まで) 入場料:無料	博物館事務室 052-789-5767	<a href="https://www.num.nagoya-u.ac.jp/exhibitions/special/#000593">https://www.num.nagoya-u.ac.jp/exhibitions/special/#000593</a>
3月16日(木)～ 31日(金)	博物館スポット展示 電気学会第16回「でんきの礎」顕彰記念 「椎尾詞の発明によるペルトル整流器」	場所:博物館玄関ホール 時間:10:00～16:00(入館15:30まで) 入場料:無料	博物館事務室 052-789-5767	<a href="https://www.num.nagoya-u.ac.jp/exhibitions/spot/#000649">https://www.num.nagoya-u.ac.jp/exhibitions/spot/#000649</a>
3月28日(火)	未来社会創造機構 マテリアルイノベーション研究所 グリーン構造材料インフォマティクス 研究部門(GiSM) 第2回ワークショップ 「様々な『みる』を通じて高温プロセスに 内在する現象を紐解く」	場所:オンライン(Teams) 時間:13:00～17:20 参加費:無料(要事前申込)	グリーン構造材料 インフォマティクス 研究部門事務局 gism@material.nagoya-u.ac.jp	<a href="https://chem.material.nagoya-u.ac.jp/%e3%80%902023%e5%b9%b43%e6%9c%8828%e6%97%a5%e9%96%8b%e5%82%ac%e3%80%91%e7%ac%ac%e4%ba%8c%e5%9b%9egism%e3%83%af%e3%83%bc%e3%82%af%e3%82%b7%e3%83%a7%e3%83%83%e3%83%97%e3%81%ae%e3%81%94%e6%a1%88%e5%86%85/">https://chem.material.nagoya-u.ac.jp/%e3%80%902023%e5%b9%b43%e6%9c%8828%e6%97%a5%e9%96%8b%e5%82%ac%e3%80%91%e7%ac%ac%e4%ba%8c%e5%9b%9egism%e3%83%af%e3%83%bc%e3%82%af%e3%82%b7%e3%83%a7%e3%83%83%e3%83%97%e3%81%ae%e3%81%94%e6%a1%88%e5%86%85/</a>
3月28日(火)	第23回人文学研究科言語学分野 公開講演会	場所:全学教育北棟4階多目的講義室(406室) 時間:14:00～15:30 講演題目:「疾病と恐怖ーペストからコロナへ」 講演者:福田真人氏(本学名誉教授/名古屋外国語大学教授) 参加費:無料(事前申し込み不要)	人文学研究科 教授 堀江 薫 horie@nagoya-u.jp	<a href="https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/event/event-sub2/post-33.html">https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/event/event-sub2/post-33.html</a>
3月28日(火)	COI-NEXT地域を次世代につなぐマイモ ビリティ共創拠点キックオフシンポジウム	場所:アジア法交流館2階アジアコミュニティフォーラム、 オンライン 時間:14:00～17:00 定員:70名(会場)、1,000名(オンライン) 参加費:無料(要事前申込)	未来社会創造機構 プロジェクト統括室 info- mymobi@mirai.nagoya-u.ac.jp	<a href="https://mymobi.mirai.nagoya-u.ac.jp/news/20230328nu-coinext_symp/">https://mymobi.mirai.nagoya-u.ac.jp/news/20230328nu-coinext_symp/</a>
3月28日(火)	第3回「持続可能は実現可能？」 ワークショップ 「春休み、立ち止まって『廃プラ』と向き 合ってみないか？」	場所:ナショナル・イノベーション・コンプレックス1階Idea Stoa 時間:10:00～11:30(第1部)、12:00～14:00(第2部) 対象:高校生、学生、教職員、一般 参加費:無料(要事前申込)	学術研究・ 産学官連携推進本部 スタートアップ推進室 https:// ideastoa.aip.nagoya-u.ac.jp/contact/	<a href="https://tongali.net/events/plastic3/">https://tongali.net/events/plastic3/</a>
3月29日(水)	『予測と創発ー理知と感情の人文学』 刊行記念シンポジウム、 人文学研究科附属人文知共創センター 設立記念シンポジウム 「けさひらく人文知」	場所:文系総合館7階カンファレンスホール 時間:10:00～12:10(刊行記念シンポジウム)、 14:00～17:00(設立記念シンポジウム) 対象:一般 参加費:無料(事前申し込み不要)	人文学研究科 附属人文知共創センター 教授 中村靖子 052-789-2234 a3hsn.project@gmail.com	
3月29日(水)	シンポジウム「分散型エネルギーへの転 換は何をもたらすのか」	場所:環境総合館1階レクチャーホール、オンライン 時間:13:00～17:00 参加費:無料(要事前申込)	環境学研究科 講師 宮坂隆文 miyataka@nagoya-u.jp	<a href="https://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/announcements/event/2023329.html">https://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/announcements/event/2023329.html</a>
3月30日(木)、 31日(金)	人文学研究科 附属人類文化遺産 テキスト学研究センター 国際シンポジウム 「宗教遺産をめぐる真正性ー宗教遺産テ キスト学の発展的展開ー」	場所:オンライン(Zoomウェビナー) 時間:13:00～17:50(3/30)、10:00～11:40、 12:40～18:35(3/31) 参加費:無料(要事前申込)	researchunit.asia@gmail.com	<a href="https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/cht/activity/lecture-forum.html">https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/cht/activity/lecture-forum.html</a>
3月30日(木)	COI-NEXTセキュアでユビキタスな資源・ エネルギー共創拠点キックオフシンポジ ウム	場所:ES総合館1階ESホール、オンライン 時間:13:00～16:00 定員:70名(会場)、1,000名(オンライン) 参加費:無料(要事前申込)	COI-NEXTセキュアでユビ キタスな資源・エネルギー 共創拠点事務局 info- henkan@mirai.nagoya-u.ac.jp	<a href="https://henkan.mirai.nagoya-u.ac.jp/news/20230330coi-nextthenkan_symp/">https://henkan.mirai.nagoya-u.ac.jp/news/20230330coi-nextthenkan_symp/</a>

3月31日(金)	自動運転車の事故の法的責任に関するシンポジウム「協調型自動運転—技術と法的課題—」	場所:オンライン(Zoomウェビナー) 時間:15:00~17:00 参加費:無料(要事前申込)	地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点 info-mymobi@mirai.nagoya-u.ac.jp	<a href="https://www.gremo.mirai.nagoya-u.ac.jp/event/230331_co-next.html">https://www.gremo.mirai.nagoya-u.ac.jp/event/230331_co-next.html</a>
3月31日(金)	未来材料・システム研究所 第2回エネルギーシステムシンポジウム「脱炭素社会の実現に向けたモビリティ部門における技術動向」	場所:IB電子情報館2階大講義室 時間:13:30~16:30 対象:高校生、一般 定員:100名 参加費:無料(要事前申込)	未来材料・システム研究所 エネルギーシステム(中部電力)寄附研究部門 052-789-3141 enesyskifu@imass.nagoya-u.ac.jp	<a href="https://www.imass.nagoya-u.ac.jp/event/20230331_engg.html">https://www.imass.nagoya-u.ac.jp/event/20230331_engg.html</a>
4月5日(水)	2023年度春季入学式	場所:豊田講堂 時間:9:30~(大学院)、 10:50~(文学部、法学部、経済学部、理学部、医学部)、 12:10~教育学部、情報学部、工学部、農学部	教育推進部基盤運営課 052-789-2159	<a href="https://www.nagoya-u.ac.jp/info/20230303_ceremony.html">https://www.nagoya-u.ac.jp/info/20230303_ceremony.html</a>
4月6日(木)	環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター ドキュメンタリー映画「Wende2」の上映会	場所:ES総合館1階ESホール 時間:18:00~20:00 ドキュメンタリー映画:「Wende2 未来へのアプローチ」 スペシャルトーク:高垣博也氏(Wende制作委員会/映画監督)、杉山範子(環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター特任准教授)、ナビゲータ:高野雅夫(同教授) 定員:100名 対象:一般 参加費:無料(要事前申込)	環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター 特任准教授 杉山範子 052-747-6547	参加申込み: <a href="http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/announcements/event/wende02.html">http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/announcements/event/wende02.html</a>  映画予告編: <a href="https://eigawende2022.wixsite.com/wende2/%E4%BA%88%E5%91%8A%E7%B7%A8">https://eigawende2022.wixsite.com/wende2/%E4%BA%88%E5%91%8A%E7%B7%A8</a>
4月6日(木)	公正研究セミナー2023	場所:オンライン(Zoom) 時間:14:00~16:00 講演者:綾部広則氏(早稲田大学教授) 対象:大学院生、研究者、一般 定員:100名 参加費:無料(要事前申込)	高等教育研究センター 052-789-3534 info@cshe.nagoya-u.ac.jp	<a href="https://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seminar/230406_ayabe/">https://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seminar/230406_ayabe/</a>
4月6日(木)	教育学部附属中学校・高等学校入学式	場所:豊田講堂 時間:10:00~	教育学部附属高等学校 副校長 三小田博昭 052-789-2680	<a href="https://highschl.educanagoya-u.ac.jp/">https://highschl.educanagoya-u.ac.jp/</a>
4月10日(月)~ 5月26日(金)	The 24th Exhibition of ITbM Gallery "HOMEOSTASIS"	場所:ITbM1階エントランスホール 時間:9:30~19:30 対象:一般	トランスフォーマティブ生命分子研究所 特任講師 高橋一誠 052-789-4999 i.takahashi@itbm.nagoya-u.ac.jp	<a href="https://www.itbm.nagoya-u.ac.jp/itbm-gallery/">https://www.itbm.nagoya-u.ac.jp/itbm-gallery/</a>
4月10日(月)	2023年度実践データサイエンティスト育成プログラム履修生・課題募集説明会	場所:オンライン(Teams) 時間:18:00~20:00	実践データサイエンティスト育成プログラム support.dsp@mds.natoya-u.ac.jp	<a href="https://www.mds.nagoya-u.ac.jp/info-session/2023-04-10">https://www.mds.nagoya-u.ac.jp/info-session/2023-04-10</a>
4月20日(木)	高等教育研究センター 第3回公開セミナー	場所:オンライン 時間:15:00~17:00 講演題目:「大学教育とAIとの関係性—ChatGPTの光と影」 講演者:和嶋雄一郎(教育基盤連携本部/高等教育研究センター特任准教授) 内容:「なぜChatGPTは大学教員に警戒されているのか?」、「どのようにすればAIを大学教育にうまく取り入れることができるのか?」といったことを取り上げる 定員:100名 対象:大学教育とAIの関連性に興味関心のある方	高等教育研究センター 特任准教授 和嶋雄一郎 052-789-5691	<a href="https://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seminar/230420_wajima/">https://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seminar/230420_wajima/</a>
4月22日(土)	博物館サイエンス&アートワークショップ「鉱物の粉末で絵を描いてみよう!」	場所:博物館2階実験室 時間:10:00~12:00 講師:吉田英一(博物館教授/館長)、宇治原妃美子(同学芸員) 定員:8名 対象:小学5年生以上、一般 参加費:無料(要事前申込)	博物館事務室 052-789-5767	<a href="https://www.num.nagoya-u.ac.jp/events/other/#000643">https://www.num.nagoya-u.ac.jp/events/other/#000643</a>

4月22日(土)	ロースクールへ行こう！2022★列島縦断 ★ロースクール説明会&懇談会	場所:オンライン(zoom) 時間:13:30~17:30 対象:中学生、高校生、学生、一般 参加費:無料(要事前申込)	法科大学院協会事務局 jals+caravan2023@jimukyoku.net	<a href="https://www.lskyokai.jp/caravan/">https://www.lskyokai.jp/caravan/</a>
4月24日(月)	第187回防災アカデミー	場所:オンライン(zoomウェビナー) 時間:18:00~19:30 講演題目:「臨海部の防災・減災は大丈夫?—これまでの災害教訓と今後の地域変容—」 講演者:富田孝史(減災連携研究センター教授) 定員:500名 対象:一般 参加費:無料(要事前申込)	減災連携研究センター ito.yumi.a0@f.mail.nagoya-u.ac.jp	<a href="http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?p=23090">http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?p=23090</a>
4月26日(水)	第137回げんさいカフェ	場所:減災館1階減災ギャラリー、オンライン(zoomウェビナー) 時間:18:00~19:30 講演題目:「100年目に語る 関東大震災研究 事始め(減災館第34回特別企画展「関東大震災」との連携企画)」 講演者:武村雅之(減災連携研究センター特任教授) 定員:40名(会場)、500名(オンライン) 対象:一般 参加費:無料(要事前申込)	減災連携研究センター ito.yumi.a0@f.mail.nagoya-u.ac.jp	<a href="http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?p=23103">http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?p=23103</a>
4月28日(金)	ジェンダー・リサーチ・ライブラリ ブックトーク 『セックスロボットと人造肉:テクノロジーは性、食、生、死を"征服"できるか』	場所:ジェンダー・リサーチ・ライブラリ1階図書室 時間:12:15~12:45 担当:岸川あゆみ(人文学研究科D3) 対象:大学生、一般 参加費:無料(事前申込不要)	<a href="https://www.grl.kyodokansaku.provost.nagoya-u.ac.jp/contact">https://www.grl.kyodokansaku.provost.nagoya-u.ac.jp/contact</a>	<a href="https://www.grl.kyodokansaku.provost.nagoya-u.ac.jp/archives/2149">https://www.grl.kyodokansaku.provost.nagoya-u.ac.jp/archives/2149</a>
4月29日(土)	東海国立大学機構連携企画博物館第29回特別展関連講演会	場所:博物館2階展示室 時間:13:30~14:30 講演題目:「木曾馬とともに生きる楽しみを考えてみよう—みなさんの声から—」 講演者:高須正規氏(岐阜大学応用生物科学部准教授)、梅村綾子(博物館特任助教) 定員:20名 参加費:無料(要事前申込)	博物館事務室 052-789-5767	<a href="https://www.num.nagoya-u.ac.jp/exhibitions/special/#000636">https://www.num.nagoya-u.ac.jp/exhibitions/special/#000636</a>
5月10日(水)~ 8月10日(木)	減災館第34回特別企画展 「関東大震災(第1部)」	場所:減災館 時間:13:00~16:00 入場料:無料	減災連携研究センター 052-789-3468	<a href="https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?p=23127">https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?p=23127</a>
6月3日(土)	医学系研究科総合保健学専攻 大学院説明会	場所:大幸キャンパス本館2階、東館4階 時間:9:00~12:00 内容:全体説明会、コース別説明会 対象:大学院進学を検討されている方(事前申込不要)	医学部・医学系研究科 大幸地区事務統括室 052-719-1518	<a href="https://www.met.nagoya-u.ac.jp/KYOUUMU/PDF/p-daisetsu.pdf">https://www.met.nagoya-u.ac.jp/KYOUUMU/PDF/p-daisetsu.pdf</a>



名古屋大学 COI-NEXT  
マイモビリティ共創拠点

## みんなの 「行きたい」「会いたい」「参加したい」 をかなえる超移動社会

本拠点は、『みんなの「行きたい」「会いたい」「参加したい」をかなえる超移動社会』をビジョンに掲げ、マイカーを使わない（運転できない、運転したくない）人にも公平な社会参加の機会が得られる、持続可能な地域の共創を目指します。本シンポジウムでは、自動運転を活用した先進モビリティ技術の開発、モビリティアセットの共有化、総合知の活用による社会的受容性の向上などの取り組みを紹介し、地域の移動問題を自分ごとと捉える「マイモビリティ」の共創によって地域を次世代につなぐ構想に関して議論いたします。

※名古屋大学COI-NEXTマイモビリティ共創拠点とは、地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点の略称で、2022年、文部科学省「共創の場形成支援」/国立研究開発法人科学技術振興機構「共創の場形成支援プログラム」の採択を受け、10年後の未来社会を見通した研究開発を産業界・大学・自治体・市民と連携して推進しています。



参加無料

定員

ホール会場 —— 70名  
オンライン —— 1000名  
※いずれも先着順

会場

●リアル会場  
東海国立大学機構 名古屋大学  
東山キャンパス  
アジアコミュニティフォーラム  
(アジア法交流館)  
●オンライン会場  
参加申込いただいた方に、  
後日配信URLをご案内します。

主催  
後援

●主催  
名古屋大学 COI-NEXT  
地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点  
●後援  
東海国立大学機構 名古屋大学 未来社会創造機構  
東海国立大学機構 名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所

※ 事前申込制の意見交換会を予定しております。

## プログラム

場所:名古屋大学 東山キャンパス  
アジアコミュニティフォーラム(アジア法交流館)  
オンライン配信

- 14:00 開会・主催者挨拶 ※敬称略  
開会挨拶 — 杉山 直(東海国立大学機構 名古屋大学 総長)  
主催者挨拶 — 佐宗 章弘(東海国立大学機構 名古屋大学 副総長)
- 14:15 来賓挨拶  
— 梅原 弘史(文部科学省 産業連携・地域振興課 拠点形成・地域振興室 室長)  
— 中川 雅人(共創の場形成支援プログラム 地域共創分野 プログラムオフィサー)  
— 西村 訓弘(共創の場形成支援プログラム 地域共創分野副 プログラムオフィサー)
- 14:35 ビジョン・取り組み紹介  
ビジョン・研究開発・取り組み内容紹介  
— 森川 高行(東海国立大学機構 名古屋大学 未来社会創造機構 教授 /マイモビリティ共創拠点プロジェクトリーダー)
- 15:05 パネルディスカッション  
『みんなの「行きたい」「会いたい」「参加したい」を  
かなえる超移動社会』  
〈モデレーター〉森川 高行(東海国立大学機構 名古屋大学 未来社会創造機構 教授 /マイモビリティ共創拠点プロジェクトリーダー)
  - 名古屋市と春日井市を結ぶ名古屋東北回廊プロジェクト  
— 日下 雄介(名古屋市住宅都市局長/マイモビリティ共創拠点プロジェクトリーダー補佐)  
— 加藤 達也(春日井市副市長/マイモビリティ共創拠点プロジェクトリーダー補佐)
  - 歴史的商業地区“エキ・シロ”再生プロジェクト
  - 地域モビリティシステムのアセットを共有する  
オープンプラットフォームの構築の検討他
- 16:50 閉会挨拶  
— 松尾 清一(東海国立大学機構 機構長)



お申し込みはこちら  
申込締切 ▶ 令和5年3月22日(水)

[https://mymobi.mirai.nagoya-u.ac.jp/news/20230328nu-coinext\\_symp/](https://mymobi.mirai.nagoya-u.ac.jp/news/20230328nu-coinext_symp/)

問合せ先

東海国立大学機構 名古屋大学  
未来社会創造機構 プロジェクト統括室

Email ▶ [info-mymobi@mirai.nagoya-u.ac.jp](mailto:info-mymobi@mirai.nagoya-u.ac.jp)

# 『予測と創発－理知と感情の人文学』 刊行記念シンポジウム

10:00～10:05 司会 中村靖子『予測と創発--理知と感情の人文学』

10:05～12:10 報告

大平英樹（名古屋大学・認知神経科学）

「予測により創発される心性」

伊東剛史（東京外国語大学・歴史学）

「新種発見の感情史－「鳥学共同体」

における栄誉と名誉」

平田周（南山大学・フランス社会思想史）

「尋問、モラル・エコノミー、罰の不公正な

配分－ディディエ・ファッサンによる

国家の抑圧装置に関する研究を手がかりに」

松井裕美（東京大学・現代美術史）

「新しい客観性の模索－かたちの変化の予想可能性と不可能性」

大平徹（名古屋大学・応用数学）

「遅れと予測－過去からの逆襲」



2023年3月29日(水)



## 名古屋大学人文学研究科

### 附属人文知共創センター設立記念シンポジウム

#### <けさひらく人文知>

司会 中村靖子(名古屋大学・人文知共創センター)

鳥山定嗣(名古屋大学・人文知共創センター)

14:00～14:20 挨拶 杉山直（名古屋大学総長）、佐久間淳一（名古屋大学副総長）

14:20～14:50 講演 盛山和夫（日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・

社会科学研究推進事業」事業委員会委員長）

「人文学・社会科学の学術知共創がめざすもの－意味世界の探究とは何か」

14:50～16:50 報告

岩崎陽一（名古屋大学・インド哲学）

「古代インドの学知体系と価値創造」

南谷奉良（京都大学・英語圏文学）

「機械のような私と私のような機械－文学研究から考える

生成AI・ロボット・人間の〈新しい握手〉について」

<休憩 10分>

田村哲樹（名古屋大学・政治学）

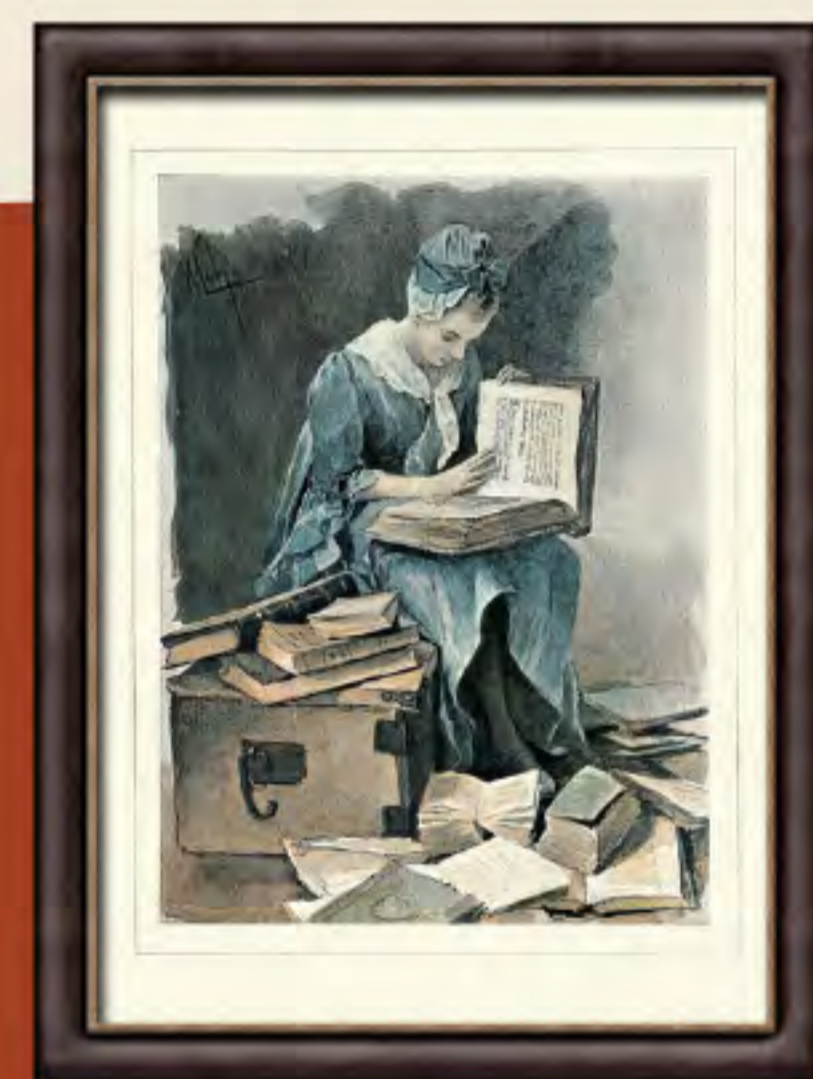
「民主主義の徹底化か？－データ(無意識)とノンヒューマンをめぐって」

鈴木麗璽（名古屋大学・複雑系科学）

「エージェント化する社会: 構成論的アプローチで

探る人付き合いのダイナミクス」

16:50～17:00 挨拶 周藤芳幸（名古屋大学・人文学研究科研究科長）



参加費無料  
どなたでも参加できます



## 消費から“変環”へ

～無理なく楽しく、資源・エネルギーを皆で共創し、資源のない日本を資源国に～

東海国立大学機構名古屋大学は、文部科学省・JSTの令和4年度「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」の共創分野に採択され「セキュアでユビキタスな資源・エネルギー共創拠点」をスタート致しました。本拠点では、“変環(変換×循環)”をキーワードに、これまでの「作る⇒捨てる」という概念を変革し、これまで捨てていた/使ってなかったものを活用して、市民自らが資源・エネルギー生産に参加する、資源・エネルギー自立型共創社会を目指して研究開発を推進します。

今回のシンポジウムでは、本拠点が目指す“変環”社会像や“変環”を社会に普及していくために今後の拠点活動に必要なことについて議論を行います。

2023.3.30(木) 13:00 - 16:00  
[12:30 受付開始]

参加無料

定員

ホール会場 — 70名  
オンライン — 1000名

会場

リアル会場：東海国立大学機構 名古屋大学  
東山キャンパス ES総合館ESホール  
オンライン会場：参加申込まいただいた方に、  
後日配信URLをご案内します。

※いずれも先着順

## プログラム

場所：名古屋大学 東山キャンパス ES総合館ESホール  
オンライン配信

## 13:00 開会・主催者挨拶

※敬称略

開会挨拶 — 杉山 直(東海国立大学機構名古屋大学 総長)  
主催者挨拶 — 佐宗 章弘(東海国立大学機構名古屋大学 副総長)

## 13:10 来賓挨拶

— 梅原 弘史(文部科学省 産業連携・地域振興課 拠点形成・地域振興室 室長)  
久世 和資(JST共創の場形成支援プログラム 共創分野プログラムオフィサー)

## 13:20 拠点紹介

## ビジョン・ターゲット・研究開発・取り組み内容紹介

— 松田 亮太郎(プロジェクトリーダー/東海国立大学機構名古屋大学大学院工学研究科 教授)

## 参画機関からの取組み紹介

株式会社大阪ソーダ SyncMOF株式会社  
東邦ガス株式会社 名古屋市

## 15:00 パネルディスカッション

## 「“変環”を社会に普及させるために拠点がやるべきこと」

〈モデレーター〉

松田 亮太郎(プロジェクトリーダー/東海国立大学機構名古屋大学大学院工学研究科 教授)  
森内 倫子(慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科 研究員)

〈パネリスト〉

白州 達也(株式会社電通事業共創局 部長)  
広瀬 毅(慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科 特任助教)  
内記 香子(海国立大学機構名古屋大学未来社会創造機構 Future Society Studio/環境学研究科 教授)  
宇治原 徹(研究課題5グループリーダー/東海国立大学機構名古屋大学未来材料・システム研究所 教授)

## 15:55 閉会挨拶

— 松尾 清一(東海国立大学機構 機構長)



## 主催・後援

## ●主催

名古屋大学 COI-NEXT  
セキュアでユビキタスな資源・エネルギー共創拠点

## ●後援

東海国立大学機構 名古屋大学 未来社会創造機構



お申し込みはこちら

申込締切 ▶ 令和5年3月28日(火)

<https://forms.office.com/r/cUVyru4tKv>

問合せ先

名古屋大学 COI-NEXT セキュアでユビキタスな資源・エネルギー共創拠点事務局

Email ▶ [info-henkan@mirai.nagoya-u.ac.jp](mailto:info-henkan@mirai.nagoya-u.ac.jp)

# 2023年度 実践データサイエンティスト育成プログラム

## 履修生・課題 募集説明会

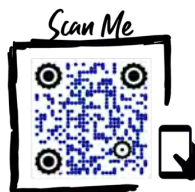
2023.4.10  
Mon  
18:00 - 20:00  
Online

データサイエンスの技術を学び、  
実践を通して課題解決力のある  
データサイエンティストを目指しませんか？



名古屋大学  
数理・データ科学教育研究センター

後援：名古屋大学協力会  
岐阜大学地域交流協力会



<https://forms.gle/onRfYWGKgQiL47hj6>

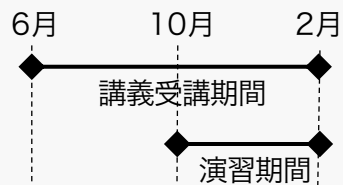
申込み

プログラムの特徴 — <https://www.mds.nagoya-u.ac.jp/ds-program>



- データサイエンスの基礎から応用までそろえた講義群
- 自分のペースで学習できるオンデマンド型講義
- 実データを用いた演習
- 社会人・大学院生混在の多様性あるグループワーク
- 認定TA (QTA) による講義・演習サポート

### スケジュール

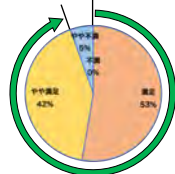


※講義は翌年度末まで視聴できます

### 2021年度の履修生・課題提供組織の反応

#### 履修生

満足度94.5%



- データサイエンスに関する体系的な知識が身につく、次に何に取り組むべきか明確になった。
- 業務で履修した授業内容が活用できた。
- 実世界データ演習の過程や成果という事例のおかげで、上司がデータ分析の具体的なイメージができるようになった。
- 複数人によるプロジェクトの進捗が効率的に運用することが出来た。
- 就職面接で話したらウケが良かった。

#### 課題提供組織（企業・自治体等）

- 品質も現場で使えるようなものを考えられて良かった。
- データ分析を行うことで得られた示唆があった。
- 単なるデータ分析だけではなく、提案もいただけた。
- 自分達がやったことがない切り口で新鮮だった。
- データサイエンス分野が非常に注目されているので、今後も何かしら一緒にやりたいと思う。



<https://www.mds.nagoya-u.ac.jp/>



[support.dsp@mds.nagoya-u.ac.jp](mailto:support.dsp@mds.nagoya-u.ac.jp)

名古屋大学博物館  
サイエンス&アートワークショップ

# 鉱物の粉末で 絵を描いてみよう!

鉱物ってなんだろう? 絵の具になるの?  
鉱物を学んで、触って、絵を描いてみましょう!

2023.4.22(土)  
10:00-12:00

会場:名古屋大学博物館2F実験室

講師:吉田英一(名古屋大学博物館 教授・館長)

宇治原妃美子(名古屋大学博物館 学芸員)

対象:小学5年生~大人 参加無料

申込:ウェブ事前申込制 先着8名

下記URLからお申し込みください  
(申込開始4/4(火)13:00~)

<https://www.num.nagoya-u.ac.jp/events/other/#000643>

※開館情報などの最新情報は名古屋大学博物館  
ホームページなどでご確認下さい



 Nagoya University Museum  
名古屋大学博物館

〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
TEL: 052-789-5767  
HP: [www.num.nagoya-u.ac.jp](http://www.num.nagoya-u.ac.jp)

地下鉄名城線「名古屋大学駅」徒歩すぐ ※公共交通機関をご利用ください

特別展関連企画

# 「木曾馬とともに生きる楽しさを考えてみよう ～みなさんの声から～」

本特別展の開催中、「木曾馬とは何か」として、みなさんにたくさんの期待のお声をいただきました。みなさんのお声を集計・分析して、本イベントにて紹介します。みなさんと一緒に、木曾馬と生きる楽しさを考えていきたいと思います。

2023

4 / 29 土 13:30-14:30 (受付開始13:15)

会場 名古屋大学博物館展示室 参加無料

講師 高須正規 (岐阜大学 応用生物科学部・准教授)  
梅村綾子 (名古屋大学博物館・特任助教)

定員 対面20名

申込 下記ウェブサイトから (申込開始 3/28(火) 13:00～)

<https://www.num.nagoya-u.ac.jp/exhibitions/special/>

※開館情報などの最新情報はホームページでご確認ください



Nagoya University Museum  
名古屋大学博物館

〒464-8601 名古屋市中種区不老町  
TEL: 052-789-5767 HP: [www.num.nagoya-u.ac.jp/](http://www.num.nagoya-u.ac.jp/)

地下鉄名城線名古屋大学駅2番出口すぐ ※公共交通機関をご利用ください

## 関連企画スケジュール

- 13:30～13:35 はじめに
- 13:35～13:50 ギャラリートーク
- 13:50～14:00 みなさんのお声紹介
- 14:00～14:25 高須先生と対話「木曾馬とは何か」
- 14:25～14:30 まとめ

## 同時開催

大岩友理 写真展  
「48年後の木曾馬たち」  
2023.3.1(水)～5.6(土)  
会場:名古屋大学博物館展示室  
入場無料



大岩友理 写真展  
YURI OOIWA photo exhibition  
48年後の木曾馬たち

2023年3月1日(水)～5月6日(土)【休館日】日・月曜日  
10時～16時 (入場15時までは)

名古屋大学博物館 Nagoya University Museum

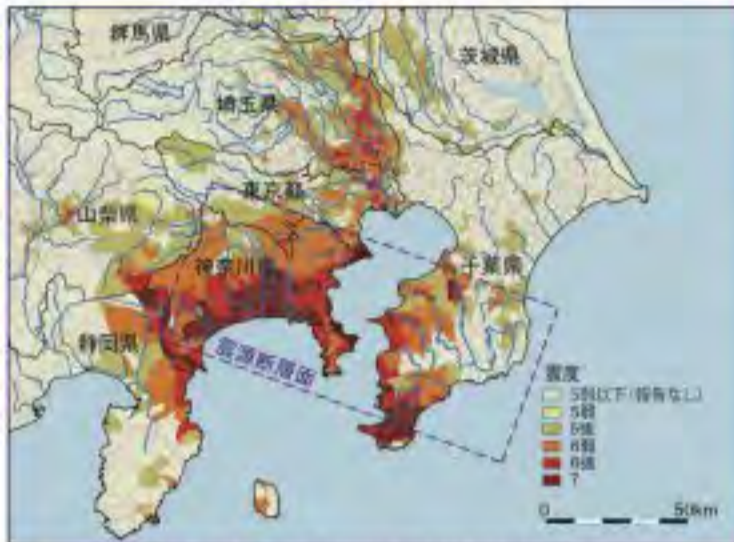
2023年

5月10日(水)～8月10日(木)

第1部

地震の正体を探る

— 関東大震災と地震学 —



「関東地震の震源断層と詳細震度分布」



(浅草十二階)

(浅草十二階) 関東大震災の絵葉書

# 関東大震災

## 第34回特別企画展

私は30年前、山形県「大正川」で地震学の勉強を始めた。その研究を続けて来た地震学者です。

震害、震動、震源について研究し、この100年とは異なる状況の上にあたる地震の震源と震害の被害を出した理由を探る。また、その研究を通じて、その研究の成果を社会に還元し、防災に関与するべきであった。その研究の成果は、地震学の発展に貢献した。その研究の成果は、地震学の発展に貢献した。その研究の成果は、地震学の発展に貢献した。

関東大震災から100年を記念してこれらの成果の一部をみなさんにお見せたい。自ら災害大国日本に生きるみなさん、が地震学を学ぶことで防災には必要です。

【開催】名古屋大学総合教育センター・特別教育施設にて



「関東大震災の鳥瞰図」

(吉田初三郎作。大阪朝日新聞大正13年9月15日付録)



関東大震災から  
100年の今年に

第34回  
特別企画展

# 関東大震災

東西動<sup>w</sup>

E

南北動<sup>s</sup>

N

上下動<sup>p</sup>

U

本震 3分後余震 4分半後余震



〔国立科学博物館と岐阜県立博物館にだけ残る今村式2倍強震計の実物（岐阜県立博物館で武村撮影、2022）〕

30年前に岐阜県地方気象台で発見した今村式2倍強震計記録（岐阜県地方気象台蔵コピー）東西動と上下動は完全な記録

## 第1部

5/10(水)～8/10(木)

地震の正体を探る

—関東大震災と地震学—

我が国の地震学の歴史上、関東地震（関東大震災を起こした地震）の影響は非常に大きい。その渦中で活躍した今村明恒は、その後の震源解明につながる多くの資料を残した。それらを紐解きながら、明らかにされた関東地震の実像に迫る。

〔復元された橋の遺構（西牧義人,1926）『震災予防調査会報告』100号甲）〕

## 第2部

8/30(水)～11/24(金)

震源直上で何が起こったか？

—神奈川県内の関東大震災—

神奈川県にとって関東地震は巨大直下型地震である。このため、県全体が震度6以上となり、震度7の地点も広範囲に及んでいる。私は10年余をかけて神奈川県下に残る慰霊碑、記念碑、遺構など関連物の全てについて現地調査を行ってきた。それらの結果をもとに地震時に震源直上で発生する様々な災害とその復興について語る。



国の史跡に指定された現在の遺構。

建設当初の江戸橋と昭和橋（『帝都復興史』第1巻、1930）


## 第3部

11/29(水)～2024 3/28(木)

関東大震災が造った東京

—帝都復興事業とその後—

関東地震は海外で東京地震と呼ばれることがある。被害の中心が当時の東京市15区であったから当然のことかもしれないが、東京は必ずしも揺れの中心ではない。ではなぜ、震源から離れた東京で最大の被害を出したのか。その反省にあって東京はどのような街に変身したのか。にも拘わらず、なぜ今東京は首都直下地震に怯えなければならないか。それらを考えてみる。

 **減災館**

Disaster Mitigation Research Building

減災連携研究センター

スペシャルギャラリートーク

①7月15日(土曜日) 13:30～

②9月16日(土曜日) 13:30～

③2月3日(土曜日) 13:30～

企画展監修の武村雅之特任教授が『関東大震災』を語ります。

※見学申し込みの上ご参加ください。



詳細はこちらから